

■住民・第2分科会【事例報告】

◎倉吉町並み保存会

○テーマ：「自主防災活動と良質な修理・修景事業推進」

○発表者： 事務局長 眞田廣幸

団体所在地：〒682-0826 鳥取県倉吉市東仲町 2591 番地

理事会等：理事 11 名（会長・桑田東之夫）

会員数：正会員 141 名（内訳：会員 112 名・賛助 29 名）

年会費：正会員 1,000 円、賛助会員 1,000 円

設立年月日：平成 15（2003）年 10 月 13 日

●【地区の概要、団体発足の経緯】

倉吉の旧市街地は、室町から江戸初期に打吹城の城下町として形成された町並みが原形となり現在に引き継がれています。江戸から昭和初期にかけて、稲扱千刃や木綿をはじめとする繊維製品などの特産品をあつかう商業活動が盛んにおこなわれました。当時の面影は、東西にのびる本町通り沿いに建ち並ぶ商家の建物にみることができます。この町並みの東側が平成 10 年度に「重要伝統的建造群保存地区」に選定され、平成 22 年度には西側に拡大されました。

倉吉町並み保存会が結成されましたのは、伝建選定から 5 年後の平成 15 年 10 月でした。この年の 5 月に伝建地区の一角から火災が発生し、火元のお宅と両隣が類焼する災害がおこりました。このことが契機となり、住民のかたがたの中に「自分たちの町は自分たちでまもる」という意識が高まり、保存会が結成されました。



図 1 倉吉市打吹玉川伝建地区の町並み

●【主な活動の内容】

○防災センター「くら用心」の管理

火災から 2 年後の平成 17 年 3 月、市が火災跡地に地域の防災拠点を整備しました。これは、修景建物として商家の主屋を新築したものです。建物の名称を市民に公募し「くら用心」と命名され、自治総合センターのコミュニティ助成事業により可搬ポンプなどの防災機器が整備されています。保存会は、この「くら用心」の管理を市から委託を受けています。

○自主防災会の活動

主な活動は、秋の火災予防週間と 1 月の文化財防火デーに倉吉消防署の協力により防災訓練を実施しています。また、鳥取県建築士会の支援を受けて「防災マップ」の作成に取り組むなど防災意識の向上に努めています。なお、保存会の自主防災会は平成 21 年度に「鳥取県知事表彰」を受けました。



図 2 防災訓練の様子

○保存修理事業

修理・修景事業は、伝建選定から修理件数 64 棟、修景件数 16 棟の計 80 棟の事業を実施してきました。所有者（事業者）、建築士、行政の三者が協議し、修理及び修景の内容を決定しています。保存会としては余り関わりをもっていませんでしたが、近年、地区外の人が店舗を新たに開くことが多くなり、それも伝建制度を理解されていない方が増えてきたようです。それに伴い、行政とトラブルとなる事例がみられるようになりました。このため、保存会の会員の中から新たな規範をつくる勉強会を開催する動きがでています。なお、技術者の勉強会も有志による取り組みがおこなわれています。



図 3 火災跡地の修景建物（左くら用心、右民間建物）

●【今後の活動】

空屋問題も、地区外のいろいろな団体が国や県の助成金を使用して伝建地区の「空屋対策」を講じておられますが、住民との信頼関係が築けないまま助成金の終了に伴い撤退されています。保存会として考えなければならない問題の一つですが、伝建地区内で安心安全に生活するためにどうすればよいか、保存会として考え行動してまいりたいと考えています。